

原子力・放射線界の信頼回復に向けて

フジサンケイ月刊エネルギー編集顧問 山名康裕

(1) 電力各社の総点検で噴出した不正事案

◇表面化した不正事案と種類

◇なぜ、これだけの不正事案が出てきたのか

◇点検結果の分析によって見えてくるもの

◇倫理・コンプライアンス違反の原因は何か

(2) 信頼回復に向けての対策

◇電気事業の存立基盤

◇最近の米国原子力界

◇原子力学会の倫理規定制定前夜

◇再発防止に向けての対策と倫理コンプライアンス

(3) なぜ、マスコミの報道が非難されるのか

◇中越沖地震などを振り返って

◇マスコミの役割&当事者の役割

◇マスコミ人生と事故・事件への対応

(4) 信頼確保に向けての放射線関係者の課題

マスコミから見た疑問／信頼阻害要因

◇なぜできぬ、なぜ進まぬ、風評被害の再発防止

◇ " 緊急・異常時における情報発信／リスク想定・評価

◇ " 放射線被害予測手法の確立（LNTの適用限界）

- ◇ “ 大線量・大線量率（広島・長崎）信奉からの脱却
- ◇ “ チェルノブイリ事故影響の積極的活用
- ◇ “ グレーゾーンに対する積極対応
- ◇ “ 確率的影響における合意可能な「閾値」の設定
- ◇ “ 高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定への協力
- ◇ “ 倫理コンプライアンス時代の生体影響のアカウンタビリティ
- ◇ “ 「安全」から「安心」までの距離短縮
- ◇ “ 防護と生体影響の峻別／LNTに対する科学的アプローチ
- ◇ “ ICRP（国際放射線防護委員会）への物言い
- ◇ “ 唯一の被曝国としての国際的リーダーシップの発揮
- ◇ “ 放射線リテラシー、放射線リスクリテラシーの確立
- ◇ “ マスコミとの円滑なコミュニケーション／誤報・誤宣伝への対応
- ◇ “ 放射線関連ディシプリンの融合／生体影響の学際的研究
- ◇ “ 公衆との積極的なリスクコミュニケーション／説明責任
- ◇ “ 体系的な放射線教育
- ◇ “ 食品照射
- ◇ “ 公衆の安心確保に向けての工夫・仕組みづくり

→